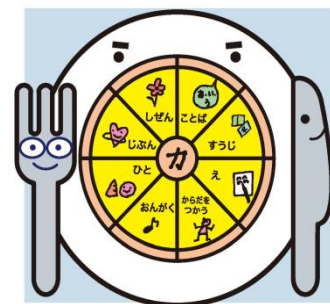


どの子どもも伸びる ユニバーサルデザインな授業・集団づくり (後編)



協同学習とマルチ知能の活用で
一人ひとりのちがいを活かす実践例の紹介



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
涌井 恵

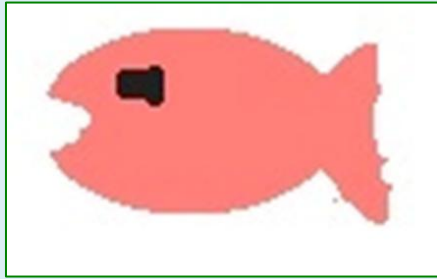
講義の流れ

- I. 通常の学級における
ユニバーサルデザインとは
- II. 協同学習とマルチ知能の活用で
一人ひとりのちがいを活かす授業(理論)
- III. 協同学習とマルチ知能の活用で
一人ひとりのちがいを活かす授業(実践例)**
- IV. 講義のまとめ**

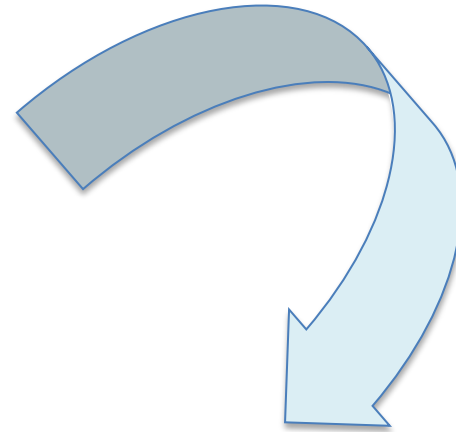
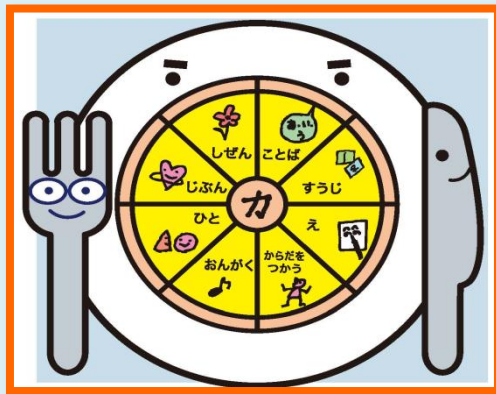
協同学習と「学び方を学ぶ」学習を 組合わせた実践

(愛称: スイミーとふろしき忍者・先生プログラム
本研究はJSPS科研費21730730,24730774の助成を受けた)

協同学習／学び合い

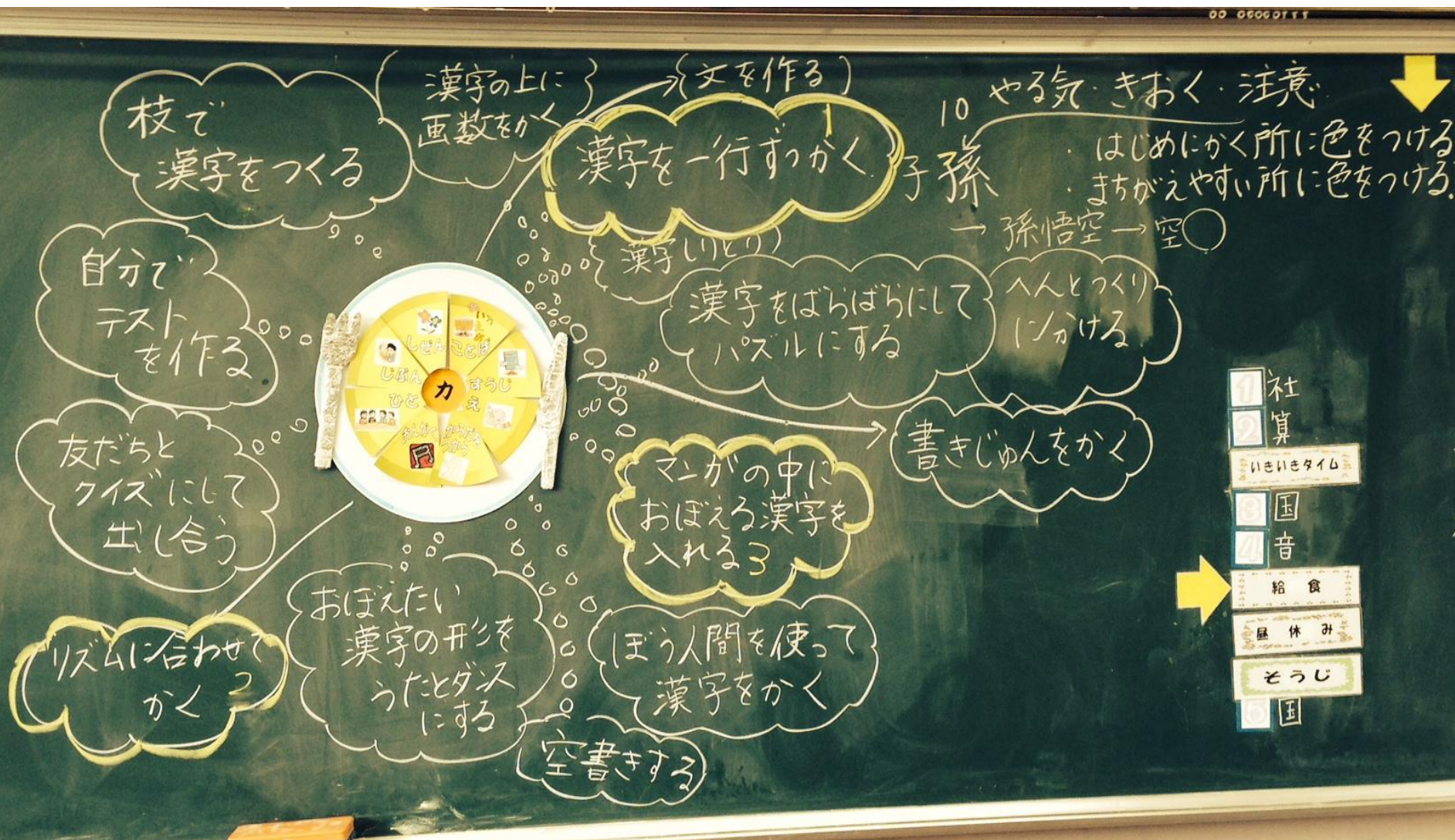


学び方を学ぶ学習



主体的、自律的に学ぶ子

マルチ漢字学習



小学校中学年での実践

〈国語〉 マルチ漢字練習

—50問テストの結果—

(実施前の1学期) 平均87点

(実施後の2学期①) 平均92点

(2学期②) 平均93点

マルチ知能活用の算数の学び合い

— 繰り下がりのある引き算 —

かぼちゃが 13こあります。
みらいちゃんが たべました。
かぼちゃは なんこ のこっていますか。



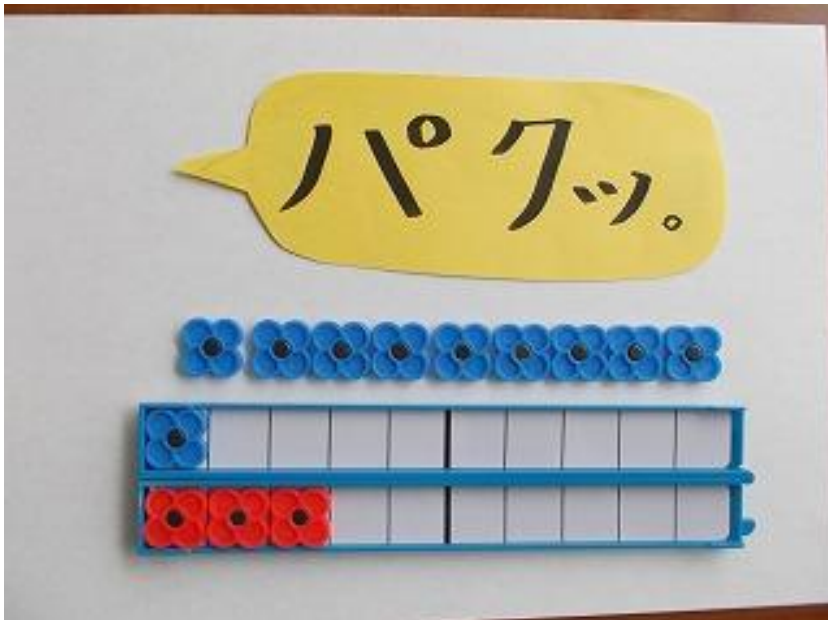
学習活動・教師の支援

減々法の考え方の場合は、やぎのみらいちゃんがかぼちゃをパクッと食べたことを振り返らせ、この場合はどう食べたかを問うことで、「パクッパクッ」という表現を引き出し、減加法との違いを音で感じられるようにした。

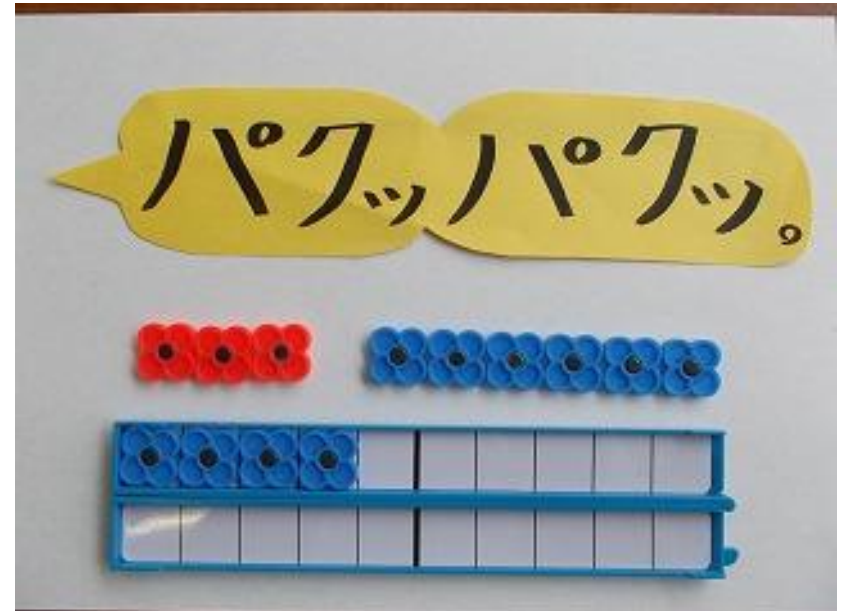
実際の児童の様子

◆減加法は「パクッ」、減々法は「パクッパクッ」と、ヤギが食べたことをイメージさせると、子ども達の集中力が高まり、楽しそうにパクッと食べる動作化をしていた。

減加法



減々法



実践の結果と考察

学習の理解や定着（単元テストの結果より）

〈技能〉 平均48.5点

〈考え方〉 平均46.3点

☆クラス全員が40点以上

学びにくさをもった10名

〈考え方〉これまで

平均40.1点

マルチ知能の活用後

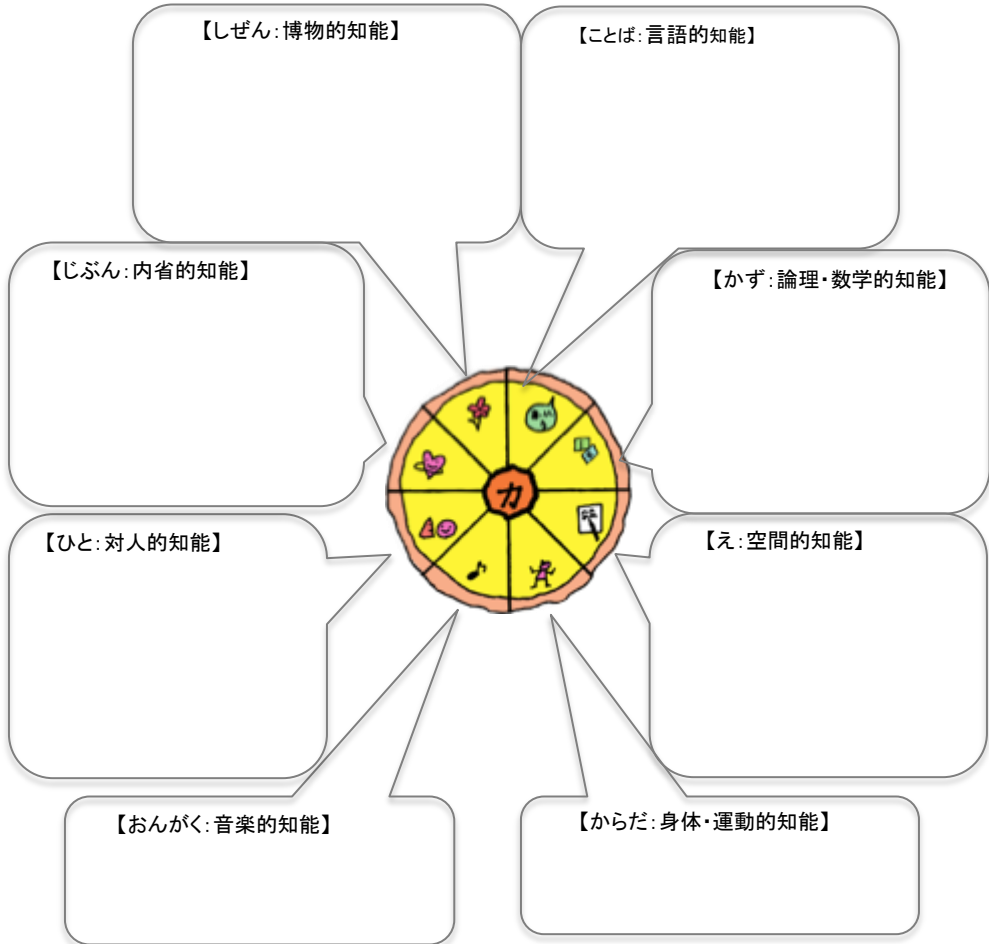
平均45.0点

☆学びにくさを持っている子どもにとっても、

マルチ知能を取り入れることは有効



単元名「 」 月 日 時目 記入者:
 本時のねらい:



やる気	記憶	注意

MIRAやる・き・ちゅの
 授業づくり曼荼羅

ふるしき先生 UD な授業チェックリスト

20140708 版 (©涌井恵：国立特別支援教育総合研究所)

●授業の骨格づくり

- 授業のねらいが明確である。つまり、子どもに求めるできた姿、わかった姿が明快に定義されている（目に見える行動、教えられる行動の記述のレベルまで落とし込む）。
- 最低（2つまたは）3つ以上の学び方を選べる課題や教材が用意されている。→（MI & やる・き・ちゅ授業づくり曼荼羅）

●教師側のこと（UDL 原則 1：教師や教材によって「伝える」ことについて）

- 教師や教材（プリントなど）が伝える情報は、様々なマルチ知能によってアクセス可能か（例：文字だけでは分かりにくい子どものためにイラストが添えられている。文章での説明や動画での説明と複数用意されている）
- 教師や教材（プリントなど）が伝える情報に、注目できるよう「やる・き・ちゅ」の観点からの工夫がなされているか。

●子ども側のこと（UDL 原則 2：子どもが自分の考えなどを「表現する」ことについて）

- すべての子どもが自分の考えなどを「表現する」機会が十分にあるか。
- その子どもが「表現する」手段は、様々なマルチ知能を活用できるようになっているか。（例：話す、書くに偏っていないか）
- 自分に合った考え方や学び方（マルチ知能）ができるような課題や教材が用意されているか。

●子どもの意欲・学習態勢（UDL 原則 3：子どもが「意欲的に取り組み続ける」ことについて）

- やる・き・ちゅ（やる気、記憶、注意）についての工夫は考えてあるか。
- 記憶や注意が難しい場合の補う手段は用意されているか（例：衝動性を押さえるための発言カード、作業記憶を補うための計算の手順カードなど）。
- 子ども同士上手に関わったり、協同したりするためのスキルを発揮できる工夫がなされているか。
- 子ども（同士）を認めたり、ほめたりする場面設定があるか（例：「わからない」と言えたことを価値づける。個人作業だけでなく、協力したり学び合えたりしていることをほめる。個人随伴性≦集団随伴性）。

授業づくり checklist (ふるしき先生UDな授業チェックリスト)

単元名「広さを調べよう」 ●月●日 ●時目 記入者:○○

本時のねらい: 既習事項(長方形と正方形の面積の求め方)を活用して、長方形や正方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる(数学的な思考)。

記入例

【しぜん: 博物的知能】

【ことば: 言語的知能】

・グループや学級全体で、面積の求め方を話し合う。

【じぶん: 内省的知能】

・マルチピザを使い、全体で面積の求め方を考えるにはどんな方法があるのかを話し合う。
・友達と一緒に考える。
・グループや学級全体で、面積の求め方を話し合う。

【かず: 論理・数学的知能】

・いろいろな面積の求め方を考える。
・面積の求め方を式で表現する。
・発表ボードに書かれた式の意味を全体で話し合う。

【ひと: 対人的知能】

・マルチピザを使い、全体で面積の求め方を考えるにはどんな方法があるのかを話し合う。
・友達と一緒に考える。
・グループや学級全体で、面積の求め方を話し合う。

【え: 空間的知能】

・フラッシュカードを用いて図形の名称を確認する。
・図を使って面積の求め方を考える。
・デジタル教材を見て、課題解決のヒントを得る。

【おんがく: 音楽的知能】

・面積の求め方のコツを歌で表現する。

【からだ: 身体・運動的知能】

・図形をハサミで切ったり、のりで貼り付けたりしながら、図形を変形させて面積の求め方を考える。



やる気

・フラッシュカードで集中力と意欲を高める。
・課題解決の方法を自分で選択する。
・面先の求め方を友達や学級全体に説明し、友達にどういしてもらったり、教師に褒められたりする。

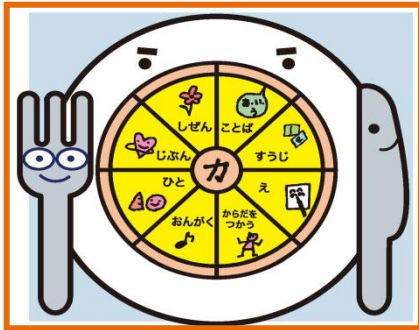
記憶

・フラッシュカードで図形の名称を覚える。
・友達の面積の求め方を自分のワークシートに書く。
・面積の求め方を友達や学級全体に説明する。

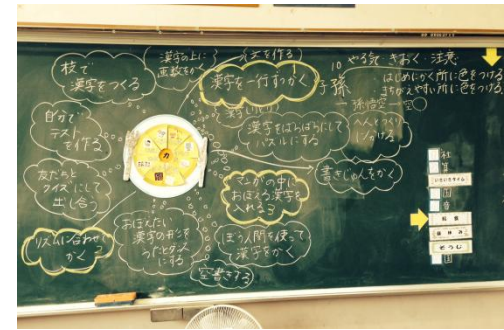
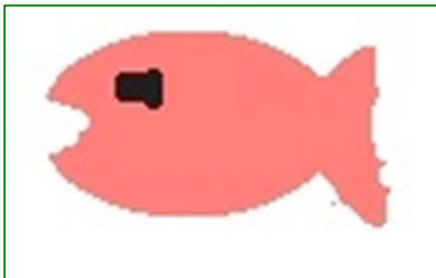
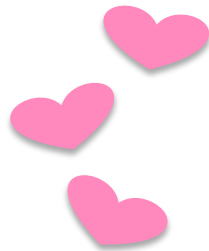
注意

・集中できるように余計な物はしまう。
・学習の流れを確かめる。
・聞く姿勢が出来ていない子に教師が声をかける。

Ⅲ. 実践のまとめ



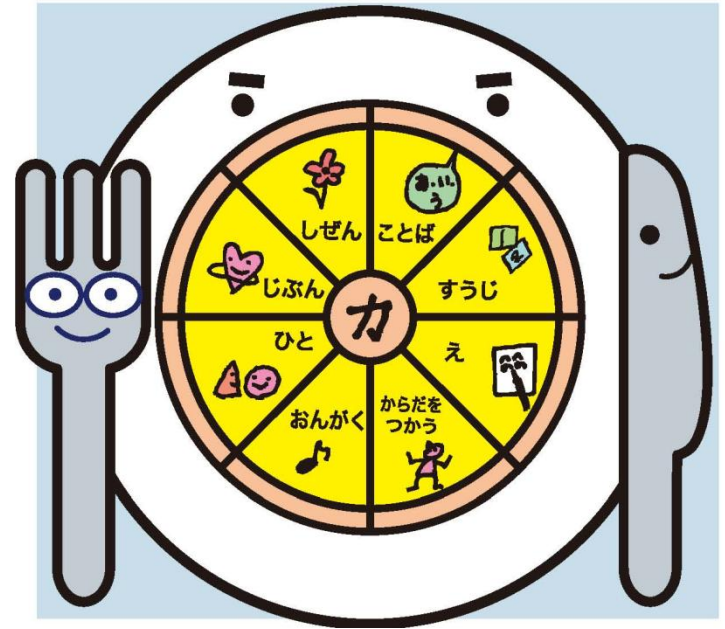
+



- 「学び方を選べる」場面設定ができる
- 子どものやる気up、学力upにつながる
- 互いの学び方が互いのヒントになる

IV. 講義のまとめ

「ことば」に偏らず、
多様な力を
活用できる授業を！



バイパスをつくることで
最終的には言語力の向上に繋がって行く。

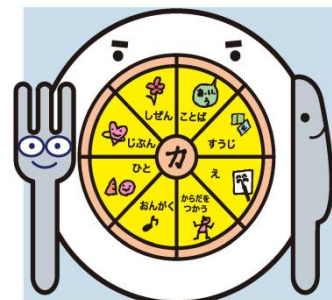
もっと知りたい方へ：参考図書

- 1) Oliverio, A. (1999) [川本英明訳 (2005) 『メタ認知的アプローチによる学ぶ技術』 創元社.]
- 2) 西川純編 (2010) 『クラスが元気になる！ : 『学び合い』スタートブック』(学陽書房)
- 3) ジャネイ&スネル (2006) [高野久美子・涌井恵監訳 (2011) 『ソーシャルスキルとピアサポート—教師のためのインクルージョン・ガイドブック』 金剛出版
- 4) 佐藤慎二 (2007) 提言:ユニバーサルデザインの授業づくりのために. 特別支援教育研究, 第596号, p.32-37, 日本文化科学社.
- 5) トーマス・アームストロング著 (2000) [吉田新一郎訳 (2002) 『マルチ知能が育む子どもの生きる力』小学館
- 6) 涌井恵編著 (2014) 『学び方を学ぶ: 発達障害のある子どももみんな共に育つユニバーサルデザインな授業・集団づくりガイドブック』ジヤース教育新社
- 7) 涌井恵 (2014) 「学び方を学ぶ」テキスト: 学びの達人(ふろしき忍者)になれるコツ. ジヤース教育新社

どの子ども伸びる ユニバーサルデザインな授業・集団づくり



(後編)



協同学習とマルチ知能の活用で
一人ひとりのちがいを活かす実践の紹介

終わり

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

涌井 恵